

塩竈市立病院事業会計

I 予算の執行状況

1 収益的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第24条第3項の規定による支出額に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
病院事業収益	3,106,560,000	0	2,935,578,768	△ 170,981,232	94.49
医 業 収 益	2,591,217,000	0	2,403,438,703	△ 187,778,297	92.75
医 業 外 収 益	514,343,000	0	532,043,646	17,700,646	103.44
特 別 利 益	1,000,000	0	96,419	△ 903,581	9.64

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	決 算 額	翌 年 越 度 額	不 用 額	執 行 率
病院事業費用	3,104,236,000	2,932,830,858	0	171,405,142	94.47
医 業 費 用	3,060,226,000	2,900,220,212	0	160,005,788	94.77
医 業 外 費 用	41,804,000	30,406,001	0	11,397,999	72.73
特 別 損 失	2,206,000	2,204,645	0	1,355	99.93

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 収益的収入

予算現額3,106,560,000円に対し、決算額2,935,578,768円で、執行率94.49%となっている。

② 収益的支出

予算現額3,104,236,000円に対し、決算額2,932,830,858円で、執行率94.47%となり、171,405,142円の不用額が生じ決算されている。

[主な不用額] ・材 料 費 109,309 千円 (薬品費 92,950 千円、診療材料費 13,063 千円)
 ・経 費 26,743 千円 (委託料 8,414 千円、賃借料 6,183 千円)
 ・給 与 費 20,551 千円 (法定福利費 13,777 千円、手当等 4,866 千円)
 ・雑 損 失 10,930 千円 (その他雑損失 10,930 千円)

2 資本的収入及び支出

1) 収入

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の繰越額 に係る財源充当額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	執 行 率
資本的収入	99,339,000	0	97,339,000	△ 2,000,000	97.98
他会計補助金	56,139,000	0	56,139,000	0	100.00
企業債	43,200,000	0	41,200,000	△2,000,000	95.37

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

2) 支出

(単位:円、%)

区 分	予 算 現 額	うち法第26条の規定 による繰越額	決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額	執 行 率
資本的支出	158,058,000	0	152,152,971	0	5,905,029	96.26
建設改良費	51,977,000	0	46,072,706	0	5,904,294	88.64
企業債償還金	99,581,000	0	99,580,265	0	735	99.99
長期借入金 償 還 金	6,500,000	0	6,500,000	0	0	100.00

(注) 決算額は消費税を含んだ金額である。

① 資本的収入

予算現額 99,339,000 円に対し、決算額 97,339,000 円で、執行率 97.98%となっている。

② 資本的支出

予算現額 158,058,000 円に対し、決算額 152,152,971 円で、執行率 96.26%となっている。

建設改良費は、施設購入費として 24,093,936 円、施設改良費として 17,202,240 円、リース資産購入費として 4,776,530 円である。施設購入費の内訳は耳鼻科内視鏡購入（契約額 6,200,280 円）、セントラルモニター機器購入（契約額 5,832,000 円）等、施設改良費の内訳は 4 階病棟 GHP 改修工事（エアコン更新）である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 54,813,971 円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額 3,058,976 円、当年度分損益勘定留保資金 51,754,995 円をもって補てんしている。

II 経営成績

平成26年度から平成30年度までの経営成績は、次表のとおりである。

消費税を除いた本年度の収益的収支は、1,105,738円の純利益となって決算されている。

なお、以下の計数については、消費税を除いたものである。

1 総収益と総費用

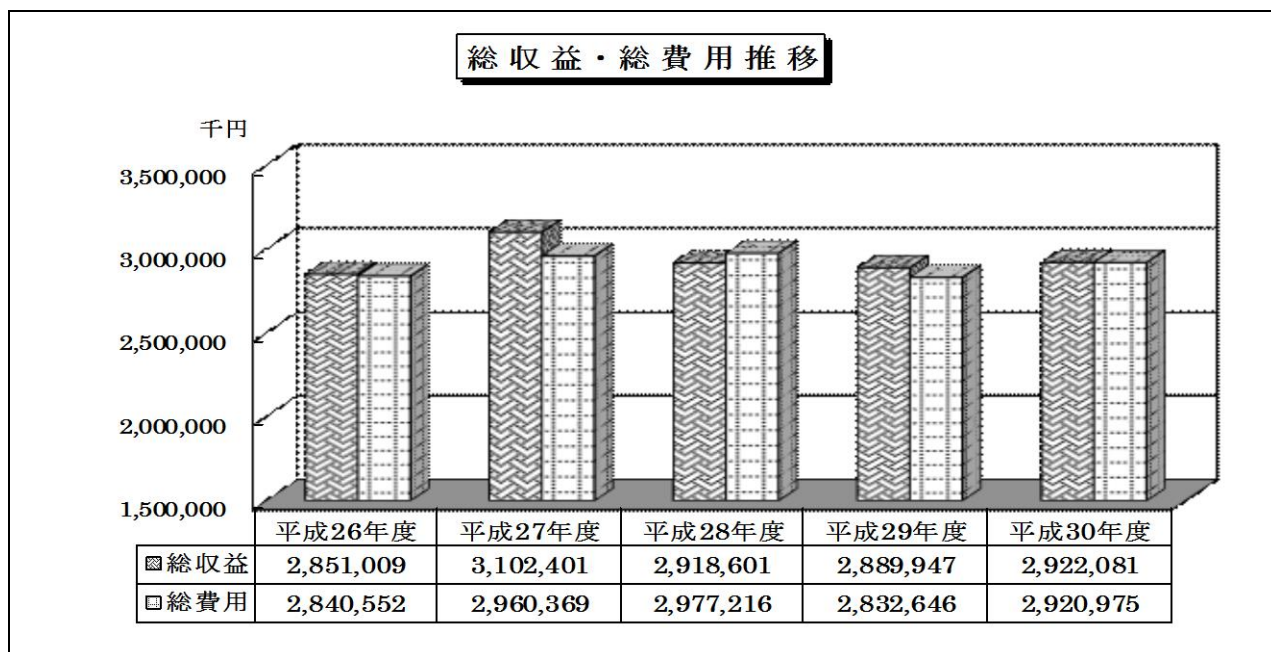
総収益・総費用すう勢比率表

(単位:円、%)

区分 年度	総 収 益		総 費 用		収支差引額 (A) - (B)	収支比率 (A) / (B)
	金 額 (A)	すう勢比率	金 額 (B)	すう勢比率		
平成26年度	2,851,008,731	100.0	2,840,552,129	100.0	10,456,602	100.4
平成27年度	3,102,400,936	108.8	2,960,368,766	104.2	142,032,170	104.8
平成28年度	2,918,601,332	102.4	2,977,216,072	104.8	△ 58,614,740	98.0
平成29年度	2,889,947,432	101.4	2,832,645,669	99.7	57,301,763	102.0
平成30年度	2,922,080,739	102.5	2,920,975,001	102.8	1,105,738	100.0

(注) すう勢比率は26年度を基準年度とする。

また、平成26年度以降の総収益、総費用の推移を図で表すと以下のとおりである。



本年度の総収支の状況は、平成26年度を比率100としたすう勢比率で見ると、総収益で前年度と比べ1.1ポイント上回った102.5%となり、総費用は3.1ポイント上回った102.8%となっている。

また、収支比率は前年度に比べ2.0ポイント下回った100.0%となり、収支差引では前年度より56,196,025円減の1,105,738円の純利益となった。

2 収 益

次に収益の内容を前年度と比較してみると次表のとおりである。

収 益 比 較 表

(単位:円、%)

年 度 区 分		平 成 30 年 度		平 成 29 年 度		対 前 年 度 比 較	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	増 減 額	増 減 率
医 業 収 益	入 院 収 益	1,436,054,366	49.1	1,495,512,471	51.7	△59,458,105	△4.0
	外 来 収 益	626,119,422	21.4	670,595,244	23.2	△44,475,822	△6.6
	そ の 他 医 業 収 益	329,132,981	11.3	307,075,878	10.6	22,057,103	7.2
	計	2,391,306,769	81.8	2,473,183,593	85.6	△81,876,824	△3.3
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	336,099,000	11.5	253,277,000	8.8	82,822,000	32.7
	他 会 計 補 助 金	109,392,000	3.7	92,417,000	3.2	16,975,000	18.4
	患 者 外 給 食 収 益	615,016	0.0	847,539	0.0	△232,523	△27.4
	そ の 他 医 業 外 収 益	16,741,510	0.6	16,614,535	0.6	126,975	0.8
	県 補 助 金	4,834,000	0.2	435,000	0.0	4,399,000	1,011.3
	長 期 前 受 金 戻 入	63,002,291	2.2	53,162,135	1.8	9,840,156	18.5
	計	530,683,817	18.2	416,753,209	14.4	113,930,608	27.3
特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	90,153	0.0	10,630	0.0	79,523	748.1
	他 会 計 補 助 金	0	-	0	-	0	-
	計	90,153	0.0	10,630	0.0	79,523	748.1
合 計		2,922,080,739	100.0	2,889,947,432	100.0	32,133,307	1.1

収益の内容を前年度と比較してみると、収益合計で32,133,307円(1.1%)の増収となっている。

これは、医業収益の入院収益59,458,105円(4.0%)等で減収となったが、医業外収益の他会計負担金82,822,000円(32.7%)等が増収となったためである。

入院及び外来患者の年延患者数の推移をみると次表のとおりである。

年 延 患 者 数 の 推 移

(単位:人、%)

区 分	平成30年度	平成29年度	対前年度比率	平成28年度	平成27年度	平成26年度
年延入院患者数	47,640	50,170	95.0	50,593	51,005	50,687
年延外来患者数	58,551	57,632	101.6	57,280	60,121	62,037
合 計	106,191	107,802	98.5	107,873	111,126	112,724

本年度の年延入院患者数は47,640人、一日平均130.5人で、前年度より延患者数2,530人、一日平均7.0人の減少。年延外来患者数は58,551人、一日平均240.0人で前年度より延患者数919人、一日平均3.8人の増加となっている。

次に患者一人一日当りの診療収入など本市と年鑑指標をみると次表のとおりである。

区 分	平成30年度	平成29年度	対前年度比較増減	平成29年度年鑑指標
患者一人一日当り診療収入 (円)	19,419	20,093	△ 674	24,476
〃 入院収入 (円)	30,144	29,809	335	45,244
〃 外来収入 (円)	10,694	11,636	△ 942	12,453
外 来 入 院 患 者 比 率 (%)	122.9	114.9	8.0	172.7
病 床 利 用 率 (%)	81.1	85.4	△4.3	75.9

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成29年度全国平均値である。

本年度の患者一人一日当りの入院と外来の診療収入を前年度と比較すると、入院収入は30,144円で335円(1.1%)上回っているが、外来収入は10,694円で942円(8.1%)下回っている。また、年鑑指標と比較すると、入院収入で15,100円(33.4%)、外来収入でも1,759円(14.1%)下回っている。

外来入院患者比率(年延外来患者数÷年延入院患者数)をみると、前年度に比べ8.0ポイント上回っている。これは入院患者の減少によるものである。(審査資料別表2参照)

3 費用

費用比較表

(単位:円、%)

区分 \ 年度	平成30年度		平成29年度		対前年度比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
医業費用	2,857,952,373	97.8	2,757,114,943	97.3	100,837,430	3.7
医業外費用	60,818,575	2.1	72,839,171	2.6	△12,020,596	△16.5
特別損失	2,204,053	0.1	2,691,555	0.1	△487,502	△18.1
合計	2,920,975,001	100.0	2,832,645,669	100.0	88,329,332	3.1

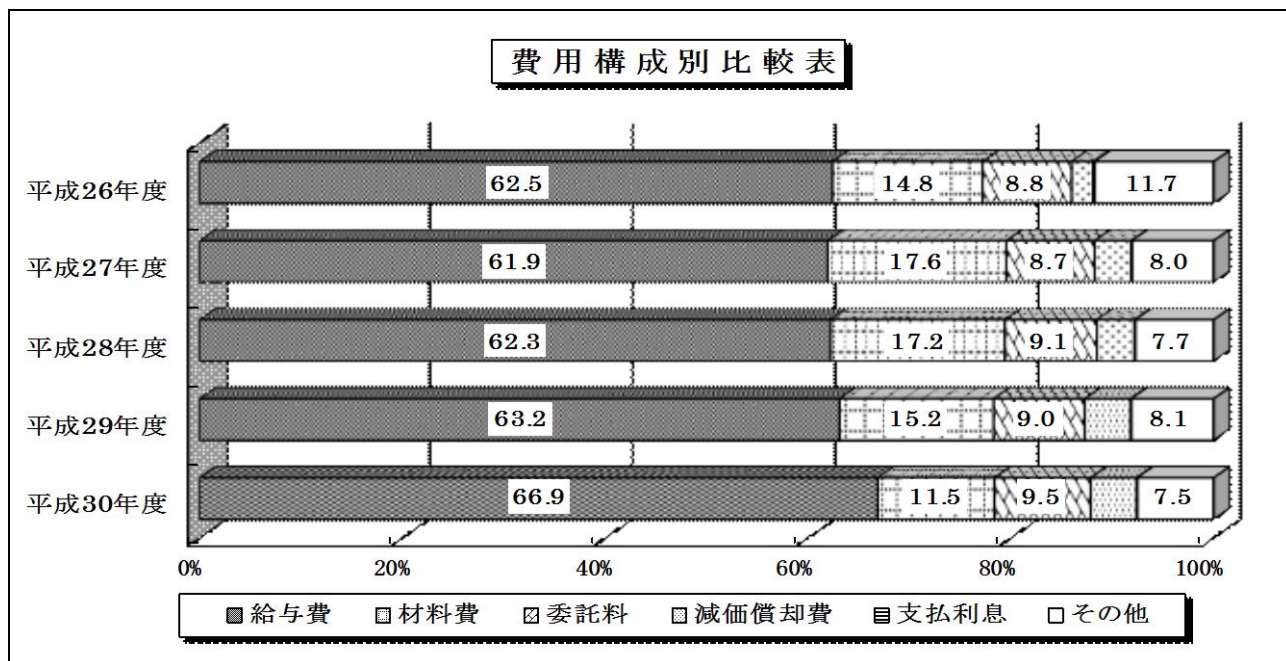
費用を前年度と比較してみると、医業外費用で 12,020,596 円 (16.5%)、特別損失で 487,502 円 (18.1%) 減少したが、医業費用で 100,837,430 円 (3.7%) 増加したことにより、費用合計で 88,329,332 円 (3.1%) 増加している。また、医業費用の増加については、賞与引当金繰入額や手当等の増加によるものである。(審査資料別表 3・4 参照)

これを構成別で比較してみると次表のとおりである。

費用構成別比較表

(単位:円、%)

区分 \ 年度	平成30年度		平成29年度		対前年度比較		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
給与費	1,953,226,982	66.9	1,789,773,750	63.2	163,453,232	9.1	
材料費	336,722,071	11.5	429,434,430	15.2	△92,712,359	△21.6	
委託料	277,185,981	9.5	255,800,918	9.0	21,385,063	8.4	
減価償却費	132,693,834	4.5	126,388,184	4.5	6,305,650	5.0	
支払利息	1,534,949	0.1	1,509,196	0.1	25,753	1.7	
その他	賃借料	29,145,063	1.0	32,066,870	1.1	△2,921,807	△9.1
	光熱水費	53,580,780	1.8	50,908,611	1.8	2,672,169	5.2
	修繕費・ 工事費	12,473,392	0.4	25,380,149	0.9	△12,906,757	△50.9
	その他	124,411,949	4.3	121,383,561	4.3	3,028,388	2.5
	計	219,611,184	7.5	229,739,191	8.1	△10,128,007	△4.4
合計	2,920,975,001	100.0	2,832,645,669	100.0	88,329,332	3.1	



構成別で前年度より増加した主なものは、給与費で 163,453,232 円 (9.1%)、委託料 21,385,063 円 (8.4%) 等である。一方、減少した主なものは、材料費で 92,712,359 円 (21.6%)、修繕費・工事費 12,906,757 円 (50.9%) 等である。

4 経営状況

病院事業の経済性を示す一つの指標として、総資本利益率等を求めれば次表のとおりである。

区分	平成30年度	平成29年度	平成29年度 年鑑指標	算式
総資本利益率 (%)	0.18	3.20	0.52	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{年平均総資本}} \times 100$
総資本回転率 (回)	1.32	1.32	0.57	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年平均総資本}}$
医業収益利益率 (%)	0.13	2.43	0.91	$\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{医業収益}} \times 100$

- (注)
- ・総資本＝負債資本合計
 - ・年平均総資本＝(期首総資本＋期末総資本)÷2
 - ・総資本利益率(経營業績、収益性を示し、比率の高いほど投下資本が効率的に運用されていることを表す)
 - ・総資本回転率(高いほど収益をあげるため総資本を効率的に活用したことを表す)
 - ・医業収益利益率(医業収益に占める経常利益の割合を示す)

総資本利益率は、前年度より 3.02 ポイント下回っている。これを総資本回転率と医業収益利益率とに分解してみると、総資本回転率で同じポイントとなったが、医業収益利益率で 2.30 ポイント下回ったことに起因している。これは当年度経常利益が 56,763,050 円 (94.6%) 減少したことによるものである。

次に経営状態の良否を判断するため、収支比率を求めれば次表のとおりである。

区 分	平成30年度	平成29年度	平成29年度 年鑑指標	算 式
医業収支比率 (%)	83.67	89.70	91.55	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
経常収支比率 (%)	100.11	102.12	97.83	$\frac{\text{医業収益} + \text{医業外収益}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \times 100$
総収支比率 (%)	100.04	102.02	97.81	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

(注) 年鑑指標とは「地方公営企業年鑑」病院・経営主体・市の平成29年度全国平均値である。

比率はいずれも高いほど経営状態は良好であることを表す。

総収支比率(総体的経営活動の能率を示す)では、年鑑指標と比較しても、2.23ポイント上回っている。これは、医業収支比率(業務活動の能率を示す)で7.88ポイント下回っているが、経常収支比率(経常経営活動の能率を示す)で2.28ポイント上回っていることによるものである。

Ⅲ 財 政 状 態

平成30年度末の財政状態は、審査資料別表5に示すとおりである。

また、資金の変動状況を活動区分別に表示するキャッシュ・フロー計算書は次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書比較表

(単位:円)

区 分	平成30年度	平成29年度	対前年度比較増減
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	151,585,716	△64,411,854	215,997,570
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△38,237,200	△117,617,048	79,379,848
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	△103,551,763	173,367,418	△276,919,181
資金増加額(1+2+3)	9,796,753	△8,661,484	18,458,237
資金期首残高	12,365,679	21,027,163	△8,661,484
資金期末残高	22,162,432	12,365,679	9,796,753

(注) 審査資料別表6参照

本年度の資金期末残高は、前年度末より9,796,753円増加し22,162,432円となっている。

その内容を区分ごとに見てみると、業務活動によるキャッシュは、賞与引当金が増加したことなどにより、前年度より215,997,570円増加し151,585,716円となっている。

投資活動によるキャッシュは、前年度より79,379,848円増加し△38,237,200円となっている。これは、有形固定資産の取得による支出によるものである。

財務活動によるキャッシュは、一時借入や企業債による収入の減少などにより、前年度より276,919,181円減少し△103,551,763円となっている。

なお、年度末現在の不良債務額の推移は、次のとおりである。

(単位:円)

	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
年度末不良債務額	△20,822,646	△512,561	95,725,056	65,146,538	265,115,766
対前年度増減額	△20,310,085	△96,237,617	30,578,518	△199,969,228	66,080,728
不良債務比率(%)	-	-	3.74	2.60	11.33

$$\text{※不良債務比率(%)= } \frac{\text{不良債務額}}{\text{医業収益}} \times 100$$

次に、財政状態の良否を示す一つの指標として、財務比率を求めれば次表のとおりである。

財 務 比 率

(単位:%)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成29年度 年鑑指標	算 式
流 動 比 率	82.66	80.71	72.62	183.08	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自 己 資 本 構 成 比 率	48.80	46.10	43.57	30.70	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	107.10	107.97	113.23	86.76	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

(注) ・流動比率(短期支払能力を示す) ・自己資本構成比率(経営の安全性を示す)
 ・固定資産対長期資本比率(固定資産の調達状態を示す)

平成30年度の決算を前年度と比較すると、流動比率で1.95ポイント、自己資本構成比率で2.70ポイント、固定資産対長期資本比率で0.87ポイントそれぞれ改善している。

IV 病院改革プラン数値目標との比較

塩竈市立病院改革プランの計画期間が平成 27 年度で終了し、新たに策定された「塩竈市立病院新改革プラン」の計画期間は平成 28 年度から平成 32 年度（令和 2 年度）までの 5 年間である。

財務に係る数値を中心にした平成 27 年度からの決算数値の推移と数値目標との比較は、次表に示すとおりである。

区 分	年 度		30年度	29年度	28年度	27年度
経常収支比率	(%)	決算数値	100.1	102.1	98.2	96.1
		数値目標	100.0	101.1	101.0	102.9
		差 額	0.1	1.0	△ 2.8	△ 6.8
医業収支比率	(%)	決算数値	83.7	89.7	88.5	87.0
		数値目標	92.3	93.3	94.0	95.7
		差 額	△ 8.6	△ 3.6	△ 5.5	△ 8.7
職員給与費対 医業収益比率	(%)	決算数値	61.7	53.3	55.0	54.0
		数値目標	54.0	51.6	52.7	55.8
		差 額	7.7	1.7	2.3	△ 1.8
病床利用率	(%)	決算数値	81.1	85.4	86.1	86.6
		数値目標	93.9	93.9	93.9	97.3
		差 額	△ 12.8	△ 8.5	△ 7.8	△ 10.7
1日平均入院患者数	(人)	決算数値	130.5	137.5	138.6	139.4
		数値目標	151.3	151.3	151.3	156.7
		差 額	△ 20.8	△ 13.8	△ 12.7	△ 17.3
1日平均外来患者数	(人)	決算数値	240.0	236.2	235.7	247.4
		数値目標	276.3	276.3	276.3	307.8
		差 額	△ 36.3	△ 40.1	△ 40.6	△ 60.4
入院患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	30,144	29,809	29,820	29,663
		数値目標	29,105	29,105	29,105	27,500
		差 額	1,039	704	715	2,163
外来患者1人1日当り 診療単価	(円)	決算数値	10,694	11,636	12,790	12,564
		数値目標	10,800	10,800	10,800	9,150
		差 額	△ 106	836	1,990	3,414
救急患者数	(件)	決算数値	784	878	828	1,044
		数値目標	1,000	1,000	1,000	1,000
		差 額	△ 216	△ 122	△ 172	44
経常損益	(千円)	決算数値	3,220	59,983	△ 52,357	△ 116,174
		数値目標	656	30,720	28,208	77,051
		差 額	2,564	29,263	△ 80,565	△ 193,225
純利益	(千円)	決算数値	1,106	57,302	△ 58,615	142,032
		数値目標	656	30,720	28,208	340,545
		差 額	450	26,582	△ 86,823	△ 198,513
一般会計からの繰入金	(千円)	決算数値	679,005	544,000	499,273	698,393
		数値目標	443,530	427,038	426,020	600,712
		差 額	235,475	116,962	73,253	97,681
不良債務比率	(%)	決算数値	-	-	3.7	2.6
		数値目標	-	-	-	△ 21.3
		差 額	-	-	3.7	23.9

塩竈市立病院新改革プランの数値目標を決算数値と比較すると、経常収支比率、入院患者 1 人 1 日当り診療単価、経常損益、純利益及び不良債務比率は目標値を達成したが、その他は目標値を下回っている。

V む す び

市立病院事業会計決算の概要は以上のとおりである。

本年度の患者数を前年度と比較すると、入院患者数は2,530人(5.0%)減の47,640人、外来患者数は919人(1.6%)増の58,551人となった。また、病床利用率は前年度の85.4%から4.3ポイント減の81.1%となっている。

収益的収支を前年度と比較すると、総収入で32,133,307円(1.1%)増の2,922,080,739円、総支出では88,329,332円(3.1%)増の2,920,975,001円で収支差引1,105,738円の純利益で決算され、前年度より純利益で56,196,025円減となっている。

総収入の増の内訳は、医業収益の入院収益59,458,105円(4.0%)や外来収益44,475,822円(6.6%)などが減になったが、その他医業収益で22,057,103円(7.2%)増、医業外収益の他会計負担金82,822,000円(32.7%)などが増となったことによるものである。

総支出の増の内訳は、医業費用の材料費92,712,359円(21.6%)、医業外費用の雑損失11,772,144円(16.8%)などで減となったが、医業費用の給与費で163,453,232円(9.1%)、経費26,116,932円(6.5%)などが増になったことによるものである。

資本的収支を前年度と比較すると、総収入では62,892,000円(39.3%)減の97,339,000円、総支出では51,732,697円(25.4%)減の152,152,971円となっており、収支差引の不足額54,813,971円は当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、当年度損益勘定留保資金で補てんし決算されている。総収入減の主な内訳は、企業債によるものであり、総支出減の主な内訳は、建設改良費によるものである。

本年度は、医業費用で材料費が減になったものの、給与費や経費が増加し、医業収益で入院収益や外来収益の医業収益が減となったことなどで収支差が生じ、それを補うため一般会計からの繰入れを増額し黒字決算となっている。

また、本年度は、市立病院新改革プラン計画期間の平成28年度から32年度(令和2年度)までの3年目になっている。その改革プランの数値目標と比較すると、経常収支比率、入院患者1人1日当たり診療単価、経常損益、純利益は目標を達成しているが、病床利用率や1日平均入院患者数及び外来患者数などは目標値を下回っている。なお、目標を達成した項目のうち、入院患者1人1日当たり診療単価以外の項目については、一般会計からの繰入れ増により達成したもので、かなり厳しい経営状況となっていることから、今後の目標達成に向けた努力を期待したい。